

## 父親の子どもとのかかわりと子育て観

ベネッセ次世代育成研究所では、0歳から6歳までの子どもをもつ父親を対象に、2005年、2009年と父親の子どもとのかかわり様子や子育て観などのアンケート調査を実施しました。乳幼児をもつ父親は家事や育児にどのようにかかわっているのでしょうか。また、どのような願いや不安をもち、子育てにのぞんでいるのでしょうか。保護者理解の一助として、前回実施した2005年の調査結果との比較も行いながら、父親についてご紹介していきます。

### 今回ご紹介するデータの調査概要

**調査名** 第2回 乳幼児の父親についての調査  
**調査テーマ** 父親と子どもの関係、家族関係、父親の仕事と家庭のバランスなど  
**調査方法** インターネット調査  
**調査時期** 第2回2009年8月/第1回2005年8月  
**調査対象** 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉)に住む0歳~6歳4カ月(就学前)の父親。サンプル数は右の通り  
 ※2009年は、比較群として地方部でも調査を実施した(529サンプル)が、2009年の全体数値には含めていない。

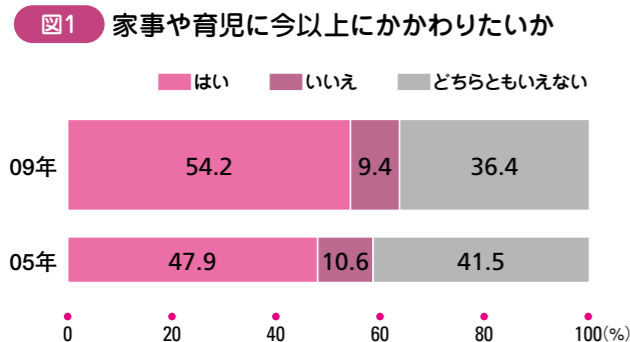
【4年経年比較のサンプル数】 (人)

	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	合計
09年	721	721	721	721	721	721	248	4574
05年	429	468	468	471	489	481	150	2956

※速報版は次世代育成研究所ホームページから無料でご覧いただけます。  
<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>

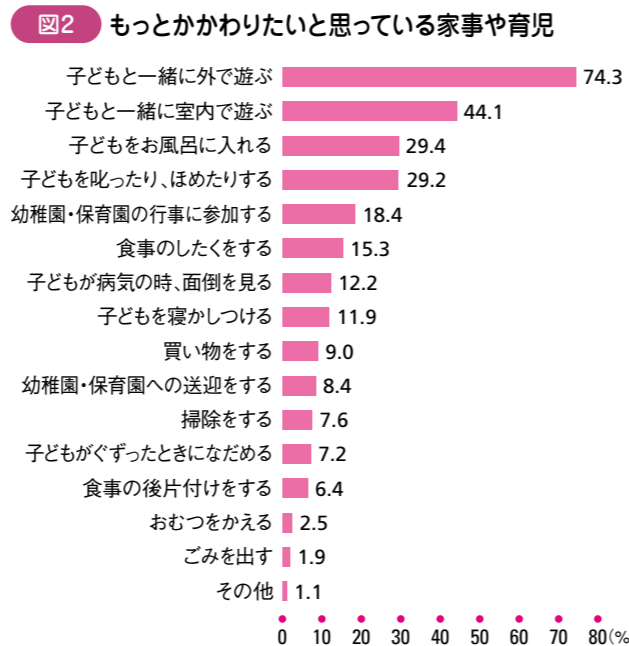
## 「今以上に家事や育児にかかわりたい」父親が増加

Q あなたは、家事や育児に、今以上にかかわりたいと思いますか



★05年に比べて、今以上に家事や育児にかかわりたいと思う父親の割合が6.3ポイント増加しています。もっとかかわりたいと思っている内訳を見てみると(図2)、上位から順に「子どもと一緒に外で遊ぶ」(74.3%)「子どもと一緒に室内で遊ぶ」(44.1%)「子どもをお風呂に入れる」(29.4%)「子どもを叱ったり、ほめたりする」(29.2%)「幼稚園・保育園の行事に参加する」(18.4%)でした。

Q もっとかかわりたいと思っているものを3つまで選んでください。

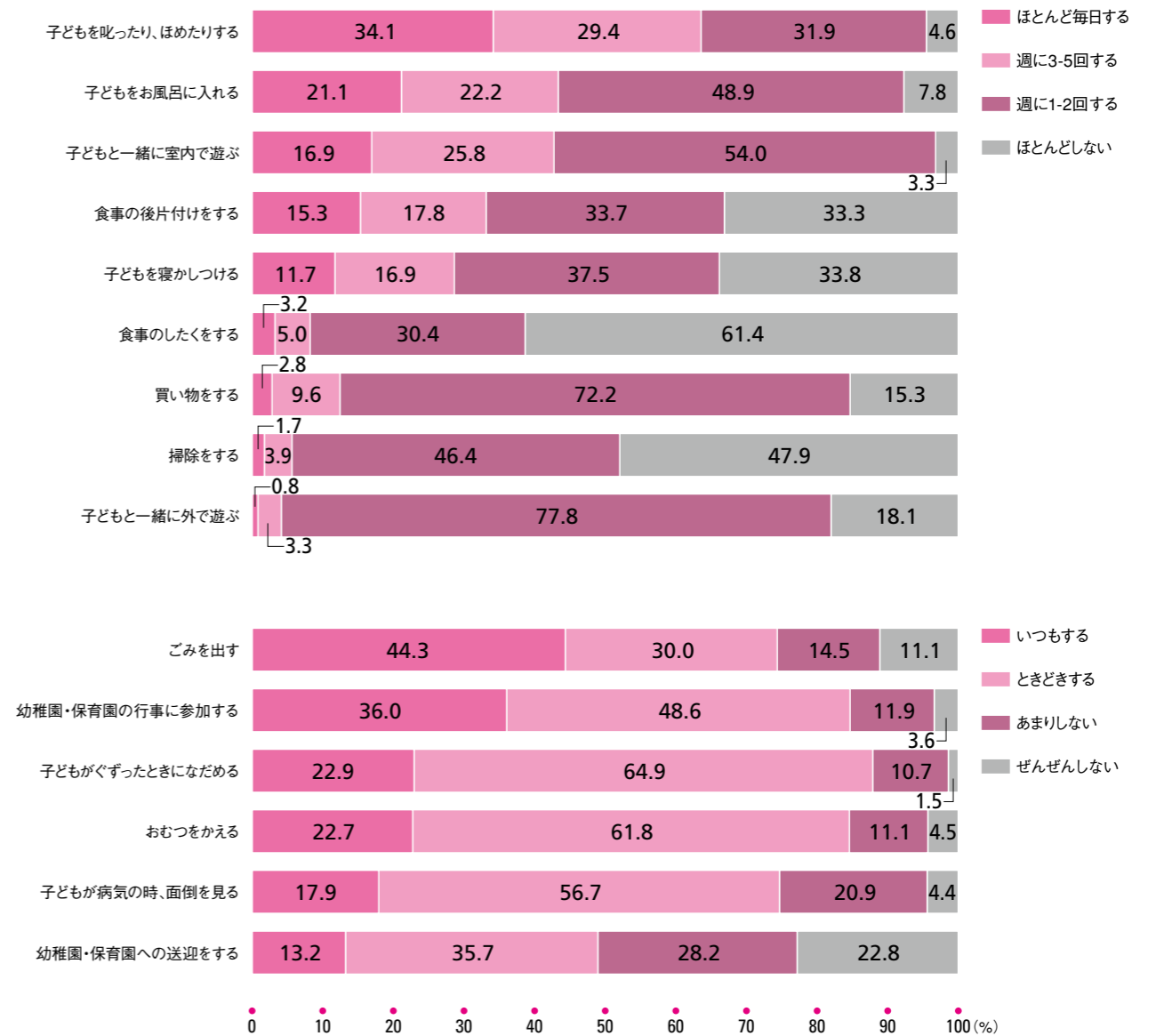


注1 図1の質問で「はい」と回答した人のみに質問。上位3つを選択  
 注2 2009年の結果

## 父親がよくするのは「子どもを叱る、ほめる」「ごみ出し」「園行事への参加」

Q あなたは、次のようなことについて、どれくらいしていますか

図3 父親が家事・育児をする頻度



注1 「ほとんど毎日する」「いつもする」の数値が高いものから順に図示している  
 注2 「該当しない」を除いた数値を表示  
 注3 2009年の結果

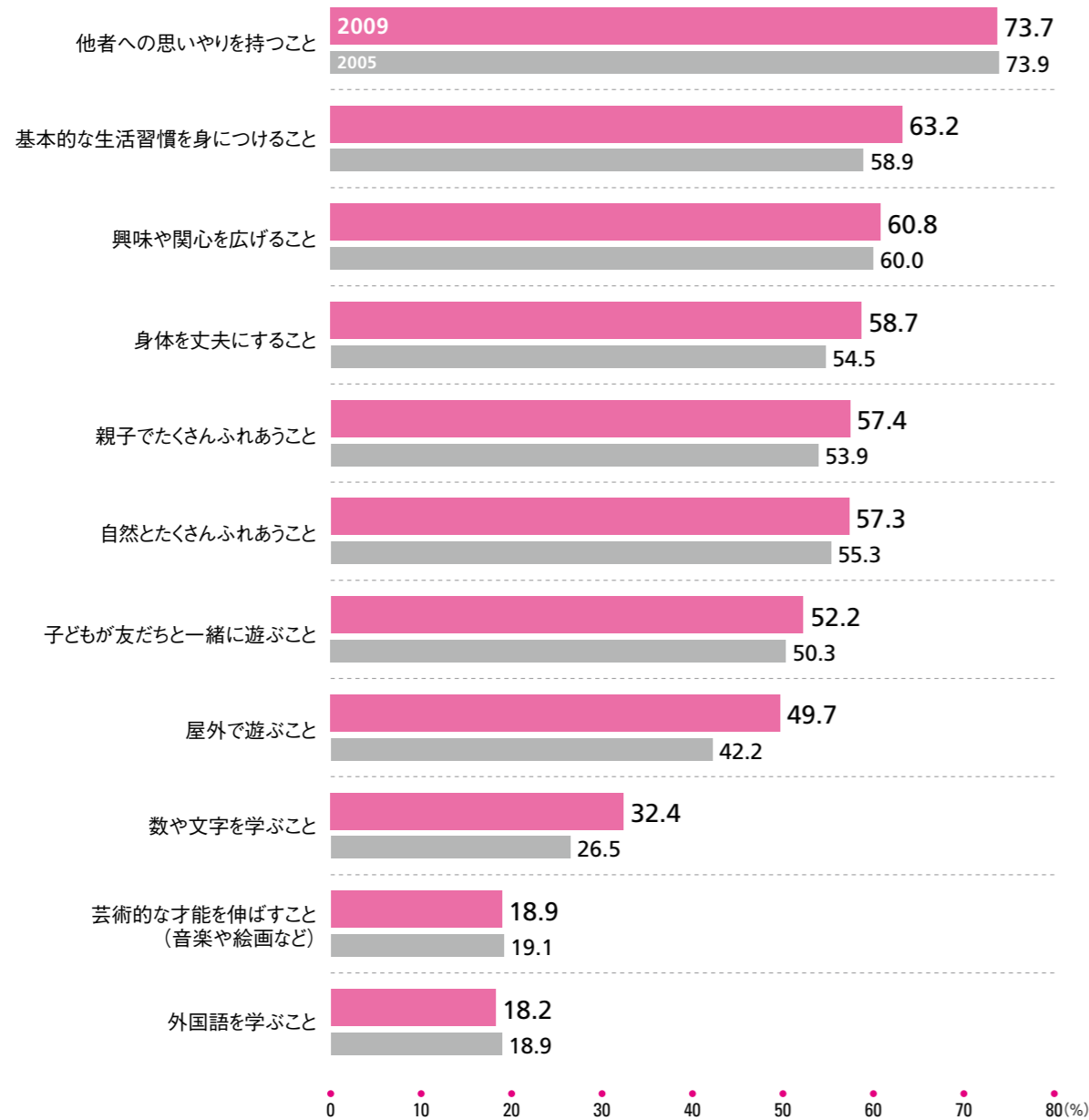
★現在かかわっている家事・育児に関する15項目についての頻度を聞いたところ、「ほとんど毎日している」の回答では、「子どもを叱ったり、ほめたりする」「子どもをお風呂に入れる」が多く、「いつもする」のは「ごみを出す」「幼稚園・保育園の行事に参加する」であることがわかりました。

「子どもと一緒に外で遊ぶ」については、「週に1~2回する」が約8割と頻度が高くはありません。しかし、この項目は、もっとかかわりを増やしたい項目として1位になっており(図2)、子どもと一緒に外で遊びたいけれど、実際にはあまり遊べていないと思っている父親の現状がうかがえます。

## 力を入れたいのは「他者への思いやり」「基本的な生活習慣」「興味や関心を広げる」

Q あなたは、どのようなことに力を入れて、お子さんを育てたいと思いますか。

図4 子育てで力を入れたいこと



注1 2009年の調査において「とても力を入れたいと思う」の数値が高いものから順に図示している

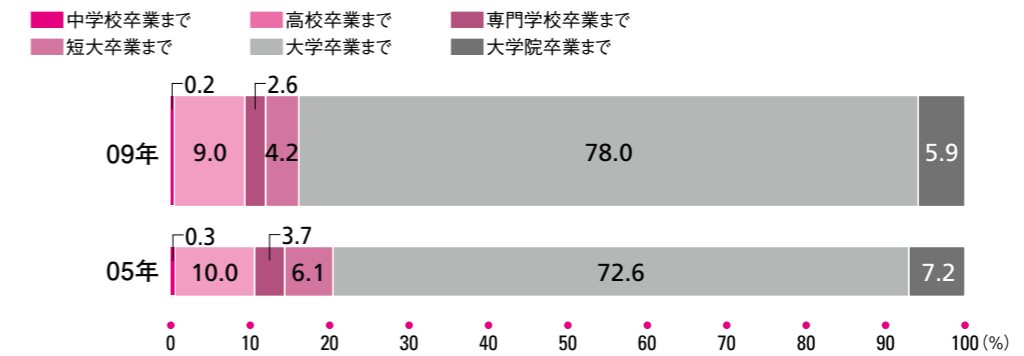
★子育てで力を入れたいと思うことについて、上位3項目は05年と変わらず「他者への思いやり」「基本的な生活習慣」「興味や関心を広げる」でした。全体的には「芸術的な才能を伸ばす」「外国語を学ぶ」をのぞくすべての項目で「とても力を入れたいと思う」数値が増加する

傾向があり、父親が子育てに熱心になっていることがうかがえます。05年と比較して増加が大きいのは「屋外で遊ぶ」(7.5ポイント増)「数や文字を学ぶ」(5.9ポイント増)でした。

## 子どもの進学は「大学卒業まで」が増加

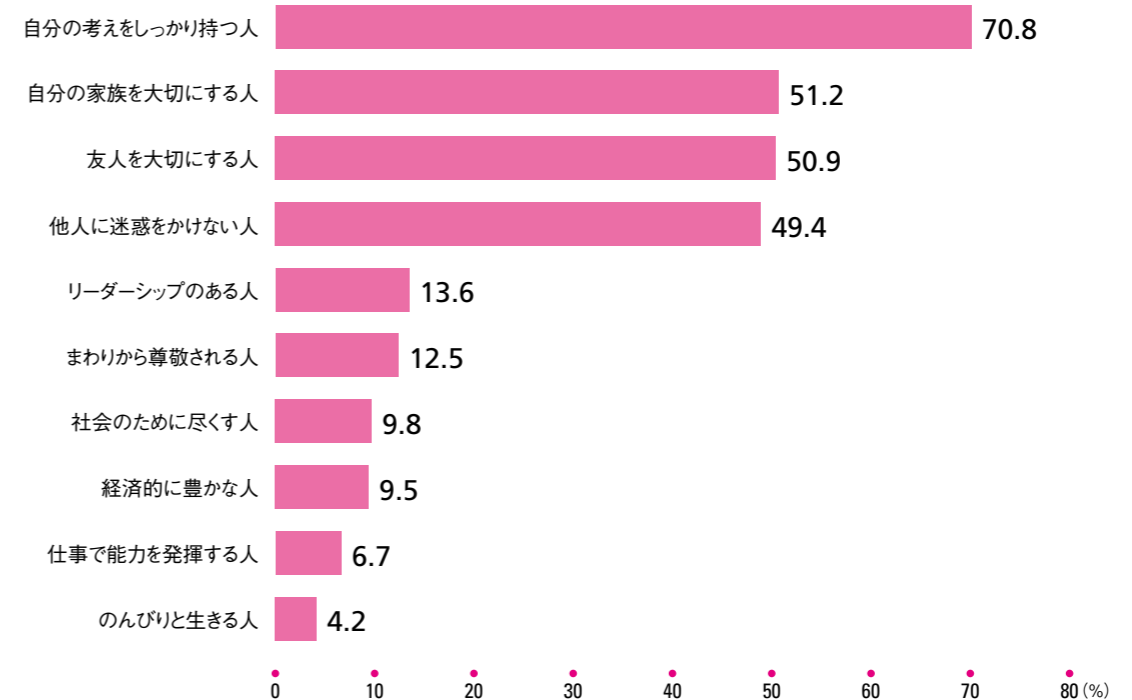
Q 現在、お子さんをどの程度まで進学させたいとお考えですか。

図5 子どもをどこまで進学させたいか



Q お子さんに、将来どのような人になってほしいと思いますか。

図6 子どもの将来像



注1 10項目中3つまでを選択 注2 2009年の結果

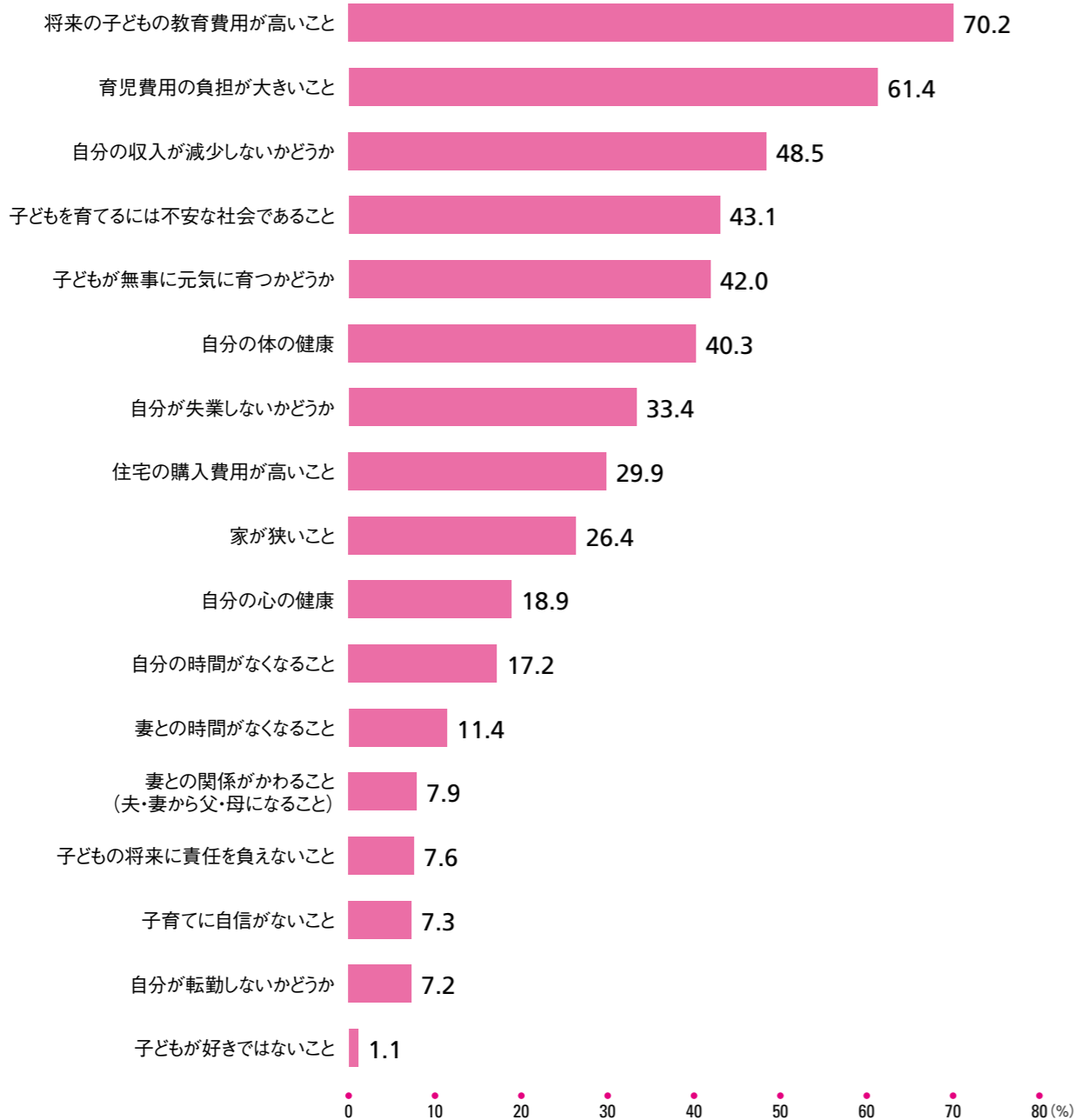
★子どもの進学は「大学卒業まで」を希望する父親が増加(5.4ポイント)しています。また、どのような大人になってほしいかを尋ねると、「自分の考えをしっかりと持つ人」が70.8%と最も高く、「自分の家族を大切

にする人」「友人を大切にする人」「他人に迷惑をかけない人」が続いています。父親はこのような価値観や資質が、これからの社会を生きるうえで必要と感じているようです。

## 不安なことは、「将来の教育費」「育児費用」「自分の収入の減少」

Q 父親として、今後不安なことはありますか。

図7 父親として不安なこと



注1 複数回答／2009年の結果

注2 提示した19項目中、「その他」「特になし」をのぞく17項目を掲載

★父親として、今後不安なことの上位3つは「教育費」「育児費用」「自分の収入の減少」でした。昨今の景気や雇用情勢の影響も考えられますが、子育て中の家計を支え

る父親にとって、費用面での不安が大きいことが分かる結果となりました。

## ベネッセ次世代育成研究所からの発刊物のご案内

### これからの幼児教育を考える

無料



2009 秋

#### 特集 保育者の資質を高める 園内研修とは

◎保育者が自らの保育を振り返り、気づきを得られるような「園内研修」とは？秋田喜代美先生のインタビュー、大豆生田啓友先生のQ&A、園内研修の具体的な手法を事例とともに紹介しています。

A4判 24ページ



2009 春

#### 特集 幼小連携の充実に向けて 現場が取り組むべきこと

◎改訂幼稚園教育要領でも強調された「幼小連携」について、調査より明らかになった現状や実践例を紹介しています。座談会では小学校が幼稚園に期待することを取り上げました。

A4判 24ページ



2009 夏

#### インタビュー 幼保一体化と 新しい幼児教育

◎今後の動きが目される幼保一体化について、その課題や展望を汐見稔幸先生と無藤隆先生の巻頭対談でとりあげます。また、幼保公私さまざまな立場のかたからの寄稿から新しい幼児教育を考えています。

A4判 24ページ



2008 秋

#### 特集 幼稚園教育要領改訂を 日々の保育にどう生かす？

◎幼稚園教育要領の改訂を受け、現場ではどのようなことに留意して保育を展開していくとよいでしょうか。「規範意識」「協同して遊ぶ」という改訂のキーワードを具現化した実践紹介も掲載しています。

A4判 24ページ

### 幼児教育・保育に関する発刊物



#### 第1回 幼児教育・保育についての 基本調査報告書 (幼稚園編・保育所編)

◎全国の幼稚園・保育所を対象に共通の設計に基づき、幼児教育・保育の実情と課題を明らかにした調査の報告書。

B5判 160ページ

有料

頒価1500円



#### 幼児の遊びにみられる 学びの芽

◎4、5歳児の遊びの事例を59サンプル収集し、遊びに含まれる学びの可能性や保育者のかかわりを分析しました。

A4判 72ページ

無料



#### 保育所での 子どもの発達と 保育のポイント

◎0歳から就学前までの子どもの成長発達と保育者のかかわりや、幼児の言動の意味と援助のポイントをまとめました。

A4判 112ページ

無料

※ホームページから購入申し込みできます。

上記の刊行物はすべてホームページからご覧いただけます。

各種検索エンジンで「ベネッセ次世代育成研究所」と検索してください。

ベネッセ次世代育成研究所

検索

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/>

### 編集後記

園は楽しい場所と思ってもらふこと、気持ちを受け止めて、自らの気づきを促すこと—保護者の成長支援は、子どもへの働きかけにとってもよく似ていました。園はあまり気構えることなく、子どもと保護者の成長を同時に応援することが大切と言えるでしょう。保護者が自分の子どもだけでなく、園の子どもの保護者として成長したとき、園にとって最強のサポーターになっていくようです。(杉田)

### 「これからの幼児教育を考える」2010春号

2010年1月20日発行

発行人 新井 健一

編集協力 (有)ペンダコ/二宮良太

後藤 素子 (株)協同プレス

印刷・製本 (株)ベネッセコーポレーション

企画・製作 (株)ベネッセコーポレーション

発行所 〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

### 次号予告

## これからの 2010 Summer 夏 幼児教育を考える

次号は2010年5月下旬発行(予定)  
年3回の発行(予定)です